

2023年5月12日
日本銀行富山事務所長
田中英敬

「富山県金融経済クォーター（2023年春）」について

- ・ 本日、「富山県金融経済クォーター（2023年春）」を公表しました。

（景気判断）

- ・ 今回、富山県の景気判断は、前回（2023年冬）の判断を据え置き、「持ち直している」としました。
- ・ 項目別には、個人消費の判断を2回連続で引き上げて、「着実に持ち直している」としました（2022年秋「引き続き持ち直しの動きがみられている」→2023年冬「持ち直している」）。
- ・ 一方、生産は「弱含んでいる」に判断を引き下げました（2022年冬から前回までの5回連続で「持ち直しの動きが一服している」）。

（全体感）

- ・ 県内景気は、生産動向など製造業の活動が一進一退を続けていますが、サービス消費を中心に個人消費の持ち直しが続いていることから、昨年春からの「持ち直し」の地合いが続いています。こうした中で、経済活動の半分以上を占める個人消費がリードする形で、全体の水準感を徐々に切り上げています。
- ・ すなわち、今年のGWの連休は、新型コロナの影響が和らぐ中で、帰省客を含む県外客の入り込みが一段と増加したほか、数多くのインバウンド客が県内の観光地を訪れるなど、コロナ前に並ぶ人出があったようです。県内の旅行取扱やホテル・旅館の宿泊客数は、昨年秋からの持ち直しの動きが着実に進んでいます。また、外出機会の増加に伴って、百貨店や商業施設などで衣料品や化粧品・雑貨等の購入が増加しているほか、スーパーでも行楽・パーティー向けの食材の売れ行きが良いようです。

こうした状況から、県内の個人消費は、サービス支出やこれに派生する需要を中心に着実に持ち直していると判断しました。

- なお、足もとも食料品・日用品などで値上げの動きが続いていることから、消費者の生活防衛的な節約志向の強まりを指摘する声も一部に聞かれています。もっとも、今年の春闘では、県内企業でも賃上げに向けた動きが広くみられ、全体では1990年代以来数十年振りの賃上げが実現する見通しです（中小企業を中心にこれから妥結を目指す先も少なくないのでフォローは必要です）。賃上げは、家計にとっては大きな助けになることから、消費者のコンフィデンスをしっかりと下支えし、足もとから先々の個人消費の底上げに貢献していくものとみています。
- 生産は、はん用・生産用・業務用機械では、海外経済減速の影響が新規受注に出始めているとの見方もありますが、豊富な受注残を消化する形で高水準の生産を続けています。一方で、電気機械ではスマートフォン向けや自動車向けの部品が一段と減少しています。こうした状況を踏まえて、生産全体の判断は弱含んでいるとしました。

(先行きの見方)

- 生産活動が一進一退の動きを続ける中で、個人消費が景気全体を引っ張る構図は、しばらくの間は変わらないとみています。
- そうした中で、①海外景気減速の影響が県内製造業の活動を一段と押し下げることがないか、また、②個人消費については、消費者物価上昇のマイナスの影響を賃上げなど雇用・所得環境の改善によって着実に打ち返していくことができるか、注視しています。加えて、③今年の春闘における賃上げなど雇用・所得環境の改善が、今後も安定的かつ持続的なものとなるよう、引き続きフォローする必要があります。

以 上